

2024年 12月 06日

消化器内科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

「 消化管狭窄に対する内視鏡治療の有用性の検討 」 への協力をお願い

消化器内科では、下記のような診療を受けた患者さんの情報を用いた研究を行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

研究の対象：2008年04月1日～2024年12月1日の間に、当院において消化管狭窄と診断され内視鏡治療を受けた患者

研究期間：研究機関の長の研究実施許可日～2029年12月31日

研究目的・利用方法：消化管治療後狭窄の一般的な治療は内視鏡的バルーン拡張術とされていますが、その内視鏡的バルーン拡張を何回も行っても狭窄が解除できず日常生活に支障をきたしている方もいます。内視鏡的バルーン拡張術難治症例がどのような背景を持つ人なのかがわかれば、他の治療方法を早めに検討することができます。また今はRICという新しい狭窄解除の方法が報告され当院でも実施をしております。どのような症例でこのような治療が有用なのかを研究していきます。この研究によりいままで難治症例であった方も狭窄解除が望める可能性があります。

研究に用いる試料・情報の項目：

身体所見：身長、体重、PS

以下の項目について診療録から取得します。これらは全て日常診療で実施された項目です。

血液検査：白血球数、ヘモグロビン、血小板数

生化学検査：総タンパク、アルブミン、AST、ALT、CRP

自覚症状

内視鏡的狭窄拡張術前の原疾患

原疾患に対する術式(術後の患者の場合に限る)

治療前の内視鏡治療の方法(内視鏡的粘膜下層剥離術・内視鏡的静脈瘤結紮術・その他)

内視鏡的拡張術の方法

有害事象

内視鏡所見(狭窄部位・狭窄長)

研究に用いる試料・情報の利用を開始する予定日：2025年2月7日

研究への参加辞退をご希望の場合

本研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりません。本研究の内容や研究結果等について質問等がありましたら以下の連絡先まで問い合わせください。また、情報が当該研究に用いられることについて了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の連絡先まで申し出ください。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会において審査、承認され、研究科長・病院長の許可を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び岐阜大学に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈および結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在しません。

研究責任者

岐阜大学大学院医学系研究科寄附講座地域腫瘍学

氏名：大西 祥代

連絡先

岐阜大学医学部附属病院 第一内科

電話番号：058-230-6639

氏名：大西 祥代

【苦情窓口】

岐阜大学医学系研究科・医学部 研究支援係

〒501-1194

岐阜県岐阜市柳戸 1 番 1

Tel：058-230-6059

E-mail：rinri@t.gifu-u.ac.jp